

3. 2021 年度事業報告詳細

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

① 大工道具など実物資料の収集

a) 実物資料の収集

本年度は下記資料を収集した。

ア) 受贈等

資料名	点数	寄贈者
長谷川幸三郎の玄能、切出小刀、他	5	西山京子
イギリスの大工道具	73	萩原信行
鋳物木型職人の道具	578	角田明敏
引手・金物・釘	170	株式会社水澤工務店
大墨壺、鏝名工品	10	原正
鳶職人の道具	12	長谷川幹男
オオガネ、下げ振り、他大工道具	20	武田信治
ジャッキ	3	吉本知之
俵灰※1	1	田中石灰工業
石膏マーブルサンプル※1	2	久住章
鉋台職人の道具 (2019 年収集分の追加登録品)	12	伊藤博
平鉋刃 ※1	1	不明
和綴本「家屋建築 規矩術図解」※1	2	不明
計	889	

※1 現在進めている資産と収集資料の見直し作業に伴い、過去収集資料を資料登録した。

② 視聴覚資料の収集と保管

a) 「ワイズベッカーのアトリエ」

企画展「フィリップ・ワイズベッカーが見た日本」での展示解説用として制作した(約 13 分)。ワイズベッカー氏のフランス・パリのアトリエにて、制作に使う「紙」「鉛筆」「テープ」「定規」など道具とコレクションについて本人が解説している。

b) VR 映像「唐招提寺金堂 構造補強と彩色再現」

企画展「天平の匠に挑む」での展示解説用として制作した(約 5 分 30 秒)。唐招提寺金堂における平成修理の構造補強(前半)と創建当初の彩色イメージ(後半)にて構成した。制作は凸版印刷(株)へ依頼した。

c) 学芸員による常設展解説

新型コロナウイルス感染症対策のため、ご来館いただけない方に常設展を楽しんでもらうべく、【学芸員による解説】シリーズとして常設展の案内映像 7 点を製作して YouTube に公開した。

d) 巡回展「木組 分解してみよう」東京会場関連

日本博の助成を得て、新たに「製作者による展示解説」映像を 7 作品制作した。また関連イベントとして薄削り及び継手仕口製作の実演を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のためイベントは中止し、代わりに製作の様子を撮影して 2 作品を Youtube に公開した。

映像資料名	点 数	制作依頼先
ワイズベッカーのアトリエ	1	宮本敏明
唐招提寺金堂 構造補強と彩色再現 常設展のご案内	1	凸版印刷株式会社
	7	エスパ
「木組 分解してみよう」東京会場関連	9	上田謙太郎、エスパ
計	18	

2021/1~2021/12 収集件数計 907点

③ 分類整理・保管

a) 収蔵庫の整備

定常業務として、害虫燻蒸、温湿度管理、資料の清拭、配架の修正等を実施。4月に竣工した収蔵庫別館に大型収蔵物配架用の木製棚を設置し、配架を行った。また収蔵庫本館と別館全体を通して、資料および備品、什器類の再配架を実施した。

b) 資料データベースの整備

資料の保全ならびに管理作業の効率化を目的に、大工道具・図書・文献・映像・論文等の資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進している。本年度は通常通りの新規収集資料の登録、写真撮影、画像補正・挿入等の作業を実施したほか、展示備品コードの追加作業等をおこなった。

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

① 常設展示

a) 常設展示の保守管理

展示品ならびに器具破損対応、消耗品補充等を適宜実施。合わせて道具の油拭きならびに借用品（桃山天満宮道具）の賃借契約更新を実施した。

b) 関連印刷物の発行

来館者用のリーフレット、企画展印刷物や図録の印刷発行と増版を含む適正在庫量を確保した。子ども向けワークシート（小学校低学年用にビンゴ系、中学年以上用にクエストカード系）を制作中（2022年春より配布予定）。

② 企画展の準備と実施

a) 開館35周年記念巡回展「木組 分解してみました」東京会場

2019年より、開館35周年事業として、様々な「木組」の魅力を紹介する大型巡回展を開催してきた（神戸、名古屋、広島、札幌実施済み）。本年度は2020年5月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため延期となっていた東京展を下記の通り、国立科学博物館と共同で開催した。

※本事業は独立行政法人日本芸術文化振興会による令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創生事業「イノベーション型プロジェクト」の助成を受けた。

会 場：国立科学博物館（東京・上野公園）日本館1階企画展示室および中央ホール

会 期：10月13日～11月24日

入場者：44,215人（37日間）

(関連イベント)

上映会「木組みの家」

日時：10月17日(日) ①10:30~11:15、②13:30~14:15

会場：国立科学博物館 日本館2階講堂

講師：上田謙太郎(映像作家)

参加者：99名

上映会「組子細工の技を継ぐ」

日時：10月31日(日) ①11:00~11:45、②14:00~14:45

会場：国立科学博物館 日本館2階講堂

講師：上田謙太郎(映像作家)

参加者：96名

上映会 工芸技術記録映画「木工芸—須田賢司のわざ—」

日時：11月14日(日) ①10:00~10:45 ②11:15~12:00

会場：国立科学博物館 日本館2階講堂

参加者：67名

講演会 木組—美と強度を求めて

日時：11月14日(日) 13:30~14:15

会場：国立科学博物館 日本館2階講堂

講師：須田賢司(木工藝家/人間国宝)

参加者：60名

【おうちでワークショップ】組子コースターづくり

期間：11月15日~12月21日

参加者：100名

※当初、展覧会場でのワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、開催中止となったことから、オンラインで開催(材料は通販)。合わせて解説動画を作成した(<https://youtu.be/ZCJetQlEmWk> 参照、1,867 回視聴、12/17 時点)。

【おうちでワークショップ】匠のすご技に迫る

当初、展覧会場でのワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止となったことから、代わりに実演・解説動画を製作し、11月21日に Youtube へ公開した。

- ・《匠のすご技に迫る》薄削り編(47,950 回視聴、12/16 時点)
- ・《匠のすご技に迫る》金輪継ぎ編(53,150 回視聴、12/16 時点)

(Youtube への映像公開)

新型コロナウイルス感染症対策に伴う映像コーナー削減に伴い、関連映像を Youtube に公開して閲覧してもらう形式(おうちでミュージアム)とした。主な作品の閲覧数は次の通り。

- ・「木組みの家/Kigumi House」842,515 回(12/16 時点)
- ・「組子細工の技を継ぐ/Heritage of Kumiko Crafts」865,114 回(12/16 時点)
- ・《製作者が語る木組の技》四方差し 木組編(5,658 回視聴、12/16 時点)
- ・《製作者が語る木組の技》四方差し 道具編(5,799 回視聴、12/16 時点)
- ・《製作者が語る木組の技》指物「櫛嵌装長方箱」(4,044 回視聴、12/16 時点)
- ・《製作者が語る木組の技》組子(2,687 回視聴、12/16 時点)
- ・《製作者が語る木組の技》錦帯橋部分模型 木組編(4,416 回視聴、12/16 時点)
- ・《製作者が語る木組の技》錦帯橋部分模型 5 連総合編(3,005 回視聴、12/16 時点)
- ・会場動画(4,727 回視聴、12/16 時点)

b) フィリップ・ワイズベッカーが見た日本—大工道具、たてもの、日用品

日常の風景の中にある何気ないものを独特な感性で描くフィリップ・ワイズベッカー（当館新館オープン時のイラストも手掛けてた）の作品展を実施した。本展では絵画作品だけでなく、制作に使用した道具などもあわせて紹介した。

会 場：当館多目的ホール
会 期：2月13日～4月25日（※）
入場者：3,424人

（関連イベント）

「ワイズベッカーサイン会」※中止
日 時：4月10日（土）①14：00～、②14：30～、③15：00～
会 場：竹中大工道具館1F特設会場
講 師：フィリップ・ワイズベッカー
参加者：緊急事態宣言発令のため中止

<デッサンワークショップ>※中止
ワイズベッカーと一緒にマイスツールをデザインしてみよう
日 時：4月11日（日）①10：00～12：00、②14：00～16：00
会 場：竹中大工道具館地下1階木工室
講 師：フィリップ・ワイズベッカー
参加者：緊急事態宣言発令のため中止

※新型コロナウイルス感染症対策に伴う緊急事態宣言発令のため、各種イベントが中止となり、会期中に閉幕となった（予定会期2/13～5/9だったが4/26で閉幕）。

- c) 天平の匠に挑むー古代の知恵 VS 現代の技術 東京・神戸展
唐招提寺金堂平成大修理を通して明らかになった木材・建築技術・彩色などの知見をもとに、建築模型・古材・彩色資料・映像などの資料を通じて、古代と現代の技術を対比的に紹介した。なお東京展は公益財団法人竹中育英会およびギャラリー エー クワッドの主催で開催し、新型コロナウイルス感染症対策のため人数制限を実施した。

《東京会場》

会 場：ギャラリー エー クワッド
会 期：8月17日～10月8日
入場者：1,200人（44日間）

《神戸会場》

会 場：当館多目的ホール
会 期：10月16日～12月12日
入場者：3,841人（50日間）

（関連イベント）

技と心講演会「天平の匠から、令和の匠へ」 ※Youtubeへ期間限定公開を実施した。
日 時：10月10日（日）13：30～15：00
会 場：当館1Fホール
講 師：石田太一（唐招提寺執事長）
参加者：63名

- d) 第18回伝統工芸木竹展（第2回神戸展）
伝統を継承しつつ、今日の生活に即した作品を全国から公募し、厳選した入選作と重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品65点を一堂に展示した。当初関連イベントとして「割物でつくる小皿」（6月5日（土）、講師：宮本貞治氏）を予定していたが、緊急事態宣言の発令により中止となった。

会 場：当館多目的ホール
会 期：5月15日（土）～6月20日（日）
入場者：1,172人

e) ジャパン・ソサエティー ニューヨーク本部開館50周年記念展「When Practice Becomes Form: Carpentry Tools from Japan」

日本の伝統木造建築の技と木組の技法を紹介する展覧会で好評を得た。特にウォール・ストリート・ジャーナル紙の展評に「No Nail? No Prob! (釘なし?でも大丈夫!です)」の記事は紙面・オンライン双方で発表され、大きな反響を得た。会場には、キャロライン・ケネディー元駐日アメリカ大使・吉川元偉国連大使夫妻もお越しになられた。

イベントとして、①鑿の使い方並びに、鉋の使い方を削ろう会 USA によるオンライン デモンストレーション、②ファミリープログラムは講師を招いてオンライン ハンズ・オン・ワークショップ、③藤本壮介講演会「自然と建築の狭間」をオンライン レクチャー、④展示解説オンライン ツアーを開催。

会 場：ジャパン・ソサエティー ニューヨーク本部
会 期：3月11日～7月11日
入場者：7,800人

f) CLT 未来をつくる木のイノベーション

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH) からの出展依頼を受け、日本のコンテンツを併設した展覧会を ETH と共催で開催した。当該期間中はまん延防止等重点措置および緊急事態宣言発令下であり、イベント等は開催しなかった。

会 場：当館多目的ホール
会 期：7月24日（土）～9月20日（月）
入場者：2,905人

g) 第11回 座る・くらべる 一脚展 + (プラス) 2021

兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展。本年度のプラス企画は「六甲の樹から生まれるかたち」。2021年2月にギャラリーエークワッドで開催された「樹の一脚展」の六甲山材の出展作品と共に、兵庫の木工家達が「六甲山スツール」を発表した。当初関連イベントとして「森のかけらでボードコールを作ろう」(9月26日(日)、講師：一脚展メンバー)を予定していたが、緊急事態宣言の発令により中止となった。

会 場：当館多目的ホール
会 期：9月23日(木・祝)～10月3日(日)
入場者：827人

h) 企画展共通備品の整備

企画展開催に必要な備品(映像関連のモニター、プロジェクター、4K・FullHD 対応メディアプレイヤー、HDMI ケーブル、USB・SD カード、サインスタンド等)を購入した。

③ 企画展の中期的準備

a) 大工道具名品展

「切出小刀ー大工道具鍛冶が込めた想い」展と名称を決定し、2022年3月5日～5月8日に開催予定として実施に向けての展示計画や広報の準備を進めた。

b) 海外特別展ヨーロッパ

2022年6～10月にポーランド共和国クラクフ市日本美術技術博物館で展覧会を開催すべく準備・調整を進めた。

(3) 大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

① 建築技術と道具に関する研究

a) 東アジア（中国、韓国）

日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により、韓国の現役大工および鍛冶に関する現地での基礎調査はできなかったため、韓国の宮殿や寺院建築の仕事を知る最後の世代である裴喜漢大工の自伝書『朝鮮大工裴喜漢の生涯、この朝鮮の鋸も錆びてしまった』の和訳を進めている。その一部の朝鮮時代の大工道具については研究紀要 33 号に掲載する予定である。

b) ヨーロッパ

ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する継続的研究を引き続き行う。本年度はヨーロッパを中心とする CLT の技術に関する調査を行った。

c) 大工技術書

木割書「鎌倉造営名目」に関する論文（「日本木作技術書《鎌倉造営名目》中的禅宗样斗拱构成与设计方法(其二):与《工程做法则例》的比较研究」）を中国清華大学の機関誌『建筑史学刊』に続編を掲載した。あわせて『鎌倉造営名目』に記載される禅宗様組物の 3D モデル化作業を行った。また館蔵史料「黒田宗信伝来文書」の読解研究を進め、研究ノート「黒田宗信伝来文書の筆者について」を『建築史学』へ投稿した（査読中）。他に 9 世竹中藤右衛門の活動に関する調査報告を松本始氏と共同で研究紀要 32 号に掲載した（出版活動の項参照）。

d) 建築部材の加工技術（部材刃痕）

近世までの部材加工技術の実態を明らかにすべく、建築部材の加工痕（刃痕）調査を継続している。本年度は、2017 年に実施した朝倉氏一乗谷遺跡の出土部材についての調査報告を熊谷透氏と共同で執筆中（研究紀要 33 号掲載予定）。

e) 職人への聞き取り調査

本年度は数寄屋大工について技法の聞き取り調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、実施を来年度に延期した。

f) 近世民家の住まい方

今年は近世民家ではなく藤井厚二に関する研究を行った。9 月発行の『日本建築学会計画系論文集』86 巻 787 号に「藤井厚二の欧米視察について（その 1）：渡航の目的と日程」と題した論文を掲載した。

g) 情報収集活動ならびに研究者ネットワークの形成

道具と建築に関する情報収集を適宜実施した。

② 出版活動（研究成果の公開）

a) 研究紀要 No. 32 の発行および No. 33 の準備

調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 32 を下記内容にて 3 月 20 日に発行し、当館関係者、大学、専門研究者等に配布した（350 部作成）。現在 No. 33 発行に向けて原稿執筆を進めている。

著者	題名
松本始・坂本忠規	三縁寺文書にみる九代竹中藤右衛門の活動
坂本忠規・加藤悠希	『黒田宗信伝来文書』「上棟之巻」の翻刻と紹介
安田徹也	〔資料紹介〕 官野裕光氏執筆鋸関連資料

(4) 教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

① 諸施設への協力

a) 諸施設への協力

下記のとおり実施した。

ア) 実物資料貸出 (2件)

貸出先	使用目的	貸出期間	資料名
大阪市立住まいのミュージアム	特別展「中井大和守の建築絵図細見」他	2019年12月12日～2022年3月	茶室養庵実物大模型 1点
株式会社竹中工務店東京本店	小学生向け企画TAKENAKA キッズプログラム「たてもの探検隊」	2021年11月17日～11月30日	ハンズオン継手模型 8点

イ) 画像・映像貸出 (14件)

貸出先	使用目的/掲載紙	掲載期間	資料名
岐阜県林政部県産材流通課	令和2年度「匠の国・岐阜県伝統建築家名鑑」	3月下旬発行	画像1点: 鉋
奈良県文化・教育・暮らし創造部文化財保存課	「無形文化財・選定保存技術伝承・活用事業」の一環として国選定保存技術「屋根瓦葺(本瓦葺)」(日本伝統瓦技術保存会) 紹介映像を作成するため		映像4点: 「粘土板(荒地)づくり」、「古代平瓦の製作工程」、「古代丸瓦の製作工程」、「古代軒丸瓦の製作工程」
株式会社アルパ	「総合学習百科事典ポプラディア 第三版」(書籍・ネット版)	11月刊行	画像6点: 鋸、平鉋、4種の錐、えんま・かじや・建築用パール、鑿、やつとこ
川崎市立日本民家園	「二足のわらじはなぜわらじ? 一ことわざになった道具考一」展	会期: 2021年7月1日～11月30日	画像1点: 図版
株式会社小学館	「日本大百科全書(ニッポニカ)」のデジタルコンテンツ	7月公開	イラスト1点: 面取鉋 画像10点: 喰切、罫引、切出小刀、剃小刀、墨壺、玄龍、先切金槌、下腹金槌、四分一金槌、端金
大阪電気通信大学	大工道具を通じて日本の建築の歴史を学習する資料として活用するため	6月29日使用	映像8点: 『大工道具と日本建築の歴史』ほか
日本文教出版株式会社	「工芸II」(文部科学省検定教科書高等学校芸術科工芸教科書)	2023年4月発行予定	画像3点: ヤリガンナの使用画像2点、鉋
独立研究者・振付家(個人/ノルウェー在住)	押す身体文化と引く身体文化に注目したダンス作品制作のための研究	2021年7月11日～9月30日	映像1点: 『削るー日本・中国・ヨーロッパの鉋』
(個人)	書籍「建築学芸員のまなざし 酒井一光論考集」	10月刊行	記事1点: 竹中大工道具館企画展「近代建築モノづくりの挑戦」P96～97の記事

株式会社ブレイン	神戸市、大阪市、姫路市、堺市、高野町の、世界遺産と組み合わせたイギリス・フランス向け観光プロモーション動画制作のため	10月完成	映像1点：竹中大工道具館公式PV
株式会社日テレAXON	日本テレビ「一撃解明バラエティ ひと目でわかる!!」番組内のVTR作成のため	放送日：10月19日（再放送11月6日）	映像1点：『木組みの家』
株式会社みすず書房	『秋山実写真集』（仮題）	2022年2月刊行予定	画像6点：墨壺、大入組鑿2点、寸八鉋刃、二寸鉋刃、切出小刀
株式会社テレビ東京	テレビ東京「世界！ニッポン行きたい人応援団」	放送日：2021年11月15日	画像1点：古墳時代の鋸
株式会社竹中工務店大阪本店	天理教教会長・信者の方に「鉋」及びその使い方を見せるため	11月26日～12月28日	映像2点：『打割製材』、『鉋と鉋』

ウ) 講師派遣 (5件)

派遣先	講演名称	開催日	講師
揚輝荘	未来へ伝えたい匠の技と心—揚輝荘から竹中大工道具館へ	1月24日	西村 章
大阪北ロータリークラブ	竹中大工道具館—未来へ伝えたい匠の技と心—	2月17日	西村 章
摂南大学住環境デザイン学科	日本建築史	9月17日～12月18日	安田 徹也
武庫川女子大学	唐招提寺金堂にみる古代の知恵・現代の技術—「天平の匠展」制作の舞台裏—	11月20日	植村 昌子
京都芸術大学	匠の技を伝えるミュージアムの試み～竹中大工道具館の教育普及活動について～(博物館教育論B)	12月21日	大村 都

エ) 博物館実習受入 (7校)

依頼先	期間	人数	内容
関西学院大学、京都芸術大学、神戸女子大学、甲南大学、甲南女子大学、広島女学院大学、神戸松蔭女子学院大学	12/8～11, 15	7名	博物館実習 (5日間)

② 教育・文化普及活動の実施

a) 「技と心」セミナーの開催

館職員および館外学識者を講師に、大工道具や建築技術に関するセミナーを実施している。(コロナウイルス感染症拡大防止のため回数を低減した。) 今年ではセミナー100回目を記念して、下記内容で開催した。

回次	会場	期日	内容	講師
第100回	当館1F多目的ホール	12/19	「技を伝え、人を育てる」(90名参加)	小川三夫(堂宮大工棟梁) 聞き手:赤尾建蔵(当館 エグゼクティブアドバイザー、理事)

b) ワークショップの開催

従来は、来館者に道具の使用を通して館の理解を深めてもらうため、「ちょこっと木工」(工作ワークショップ、水曜、土日祝日)、大工による鉋削り体験(月1回)、大工道具にチャレンジ(月1回)、春休み・夏休み子ども体験教室、木工作家によるワークショップなどを定期的実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、職員および関係者で対応可能なイベントのみ規模を縮小して開催した。緊急事態宣言中のワークショップについてはすべて中止とした。

ア) 木工イベント(18件 延270名)

プログラム名	実施日/実施日数	講師	参加人数
大工道具にチャレンジ!	0日(新型コロナウイルス感染症対策他のため中止)	北村 智則、ボランティア、	0名
大工と一緒に鉋削りに挑戦!	0日(新型コロナウイルス感染症対策他のため中止)	北村 智則、ボランティア、委託大工	0名
ちょこっと木工	0日(新型コロナウイルス感染症対策他のため中止)	北村 智則、ボランティア、委託大工	0名
刃物研ぎ教室	8/28	北村 智則	5名
包丁研ぎ教室	合計6日	北村 智則	38名
ワークショップ「組み木の昇り人形をつくろう」	3/27, 28	北村 智則	7名
ワークショップ「組み木のこいのぼりをつくろう」	4/16, 17	北村 智則	6名
夏休み子ども体験教室「ひのきのおはしをつくろう」	7/22, 23	後藤 雅宏	22名
夏休み子ども体験教室「道具箱をつくろう」	7/24	北村 智則	7名
夏休み子ども体験教室「リュールシロフォンをつくろう」	7/25, 8/7	北村 智則、後藤 雅宏	28名
夏休み子ども体験教室「えんぴつ立てをつくろう」	7/31	後藤 雅宏	12名
夏休み子ども体験教室「ロボ木スペシャルデー」	8/1	藤田 眞一、藤田 紀子、大村 都	12名
DIY 子ども工作教室	8/4	DIYアドバイザー	10名
ポートピアホテル夏休み子ども教室	8/6	北村 智則	親子6組
ワークショップ「ハンペルマンをつくろう」	8/8, 9	よねざわ ともみ	15名
夏休み子ども体験教室「ゆらゆら人形をつくろう」	8/14	北村 智則	3名
夏休み子ども体験教室「ひのきのねんど、六甲山の木のたまごをつくろう」	8/15	後藤 雅宏	15名
ワークショップ「木でつくる! ころころキーホルダー」	10/17	黒岩 絵里子	10名/組
ワークショップ「ペーパーコードの座編みツール」	11/6, 7	馬場田 研吾	16名

ワークショップ「パン皿をつくろう」	11/27, 28	後藤 雅宏	23名
ワークショップ「釘うちトントン、木でつくるクリスマスオーナメント」	12/4, 5	黒岩 絵里子	16名
ワークショップ「組み木の2022年干支動物をつくろう」	12/18, 19	北村 智則	13名

イ) 学校向けプログラム

新型コロナウイルス感染症対策のため休止とした。

ウ) 茶室公開

春、秋季の特別公開は、コロナ禍により呈茶は開催せず、webによる事前予約制・各回定員6名で実施。5月22日(土)、23日(日)の特別公開は緊急事態宣言の発令により中止となった。

内容	実施日	参加者
春季茶室「一滴庵」特別公開	4/24, 25	26名
秋季茶室「一滴庵」特別公開	10/23, 24, 11/20, 21	106名

エ) 新型コロナウイルス感染症対策に伴うイベント事業

・ おうちでミュージアム

2020年5月より期間限定で「おうちでミュージアム」を開催していたが、好評につき常時公開とした。昨年からの続きである「学芸員による常設展案内」映像や、通常は来館してご覧いただけるビデオライブラリーの日本語字幕と英語字幕の両方が揃っている映像を中心にYouTube(チャンネル登録者数34,227人、12/16時点)に公開した。

内容	総作品数	合計視聴回数、12/16時点
学芸員による常設展解説	7作品	41,530回
ビデオライブラリー	(日本語) 20作品	77,212回
	(英語字幕) 15作品	39,071回

c) 木工室の管理・運営

適宜、管理運営業務を実施し、消耗品の補充等を行った。

③ ボランティア活動の管理・運営

a) 管理運営

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のためボランティア活動を休止した(勉強会と事務局運営のみ実施)。

内容	実施日	参加者
ボランティア事務局会議	7, 10, 11, 12月各1回	ボランティア事務局員
ボランティア英語解説勉強会	1, 10, 11, 12月各1回	解説ボランティア有志(TCTG)

b) 茶道部運営管理

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、茶室特別公開時の呈茶は中止したため、ボランティア活動も休止。

(5) 竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

① 管理・運営一般

a) 財務会計処理業務一般

本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施した。

b) 入館受付、団体受付、視察等の展示説明他

新型コロナウイルス感染症拡大による県からの休業要請に従い、4月27日から5月11日まで臨時休館とした。再開後も博物館のガイドラインに従ってコロナ対策を実施している。団体予約については昨年に引き続き受付を休止中。

② 広報活動

a) 広報一般

新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの延期や中止、また臨時休館や再開館等、適宜各広報先へ最新情報を周知、情報訂正の依頼を行った。また、イベント申込者への連絡についても、同様にその都度適宜対応した。

取材依頼については適宜コロナの状況を判断して可能な範囲で受け入れ、視察については人数等条件を設定し、その範囲内で受け入れている。

b) 広報印刷物の発行と送付

当館の最新情報および企画展案内を掲載した広報誌「竹中大工道具館 NEWS」（年2回発行、作成部数6月：5,000部、12月：5,000部）を発行、関連施設や来館者などに配布並びに発送した。「イベントチラシ」（例年、年2回発行）についてはコロナ禍によりイベントスケジュールが立たず、中止や延期となる可能性が高いことから発行はせず、適宜HPやメールマガジン、SNSでの発信のみとした。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けにITを利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年4回、広報誌NEWSベースに再編集）を実施した。

d) GoTo トラベル事業、県民向け旅クーポン事業への参画

GoTo トラベル事業については、昨年12月より休止中。再開通知があり次第、すぐに対応できるよう準備のみしている。

県民向け旅クーポン事業については11月より実施。紙クーポンでの入館料支払い・ショップでのグッズ購入に利用可とした。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。

a) 新商品の販売（組手コースターキット）

木工室閉鎖のため木工体験ができない代わりとして、7月より自宅で楽しめる木工キットの販売を始めた。

④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理した。

⑤ 休憩室の維持・管理

休憩室を適切に維持管理し、来館者への憩いの場として提供した。現在も席数を半分に減らし、適宜消毒と清掃の強化を実施している。

⑥ 館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るとともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実とユーザーの利便性の向上に努めた。コロナ禍において閉館するため、来館者への入場制限、入場時のルール等の配信、インターネットを通じたワークショップ予約、通信販売を実施した。

⑦ 理事会・評議員会、役員見学会の開催

2～3月の定時理事会及び定時評議員会は感染症拡大防止の観点から書面による決議とした。また、11月に次年度の事業計画・予算の定時理事会及び役員見学会を開催した。

⑧ 財団法人事業報告会への参画

(公財)竹中育英会、(公財)ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催について相互に情報交換を行った。

⑨ 運営管理の改善と効率化

館の運営に係る管理費(固定経費)をより精度よく把握するとともに、事業費(変動費)の予実管理の充実を図ると共に効率よい運営に努めた。